

IMF・世界銀行年次総会 CSO 連絡会（第2期） 第3回全体会合
議事録

日時：2012年7月30日（月）16:45～18:00

場所：JANIC 事務所 6F 会議室

出席者：別紙参照

配布資料：IMF・世銀総会スケジュール、第1回 CSO Planning Group 電話会議の報告

1. 開会

2. 出席数の確認：22団体中、12団体出席。

3. 議長選出：事務局より谷山（幹事、JVC）を指名。

4. 議事録署名人の選出：井上（アーユス仏教国際協力ネットワーク）、田中（オルタモンド）

5. 議題案

5.1. 規約改定について：

幹事会での議論により、第3条（活動）に「CSO Planning Groupへの側面的支援」を追加。JANIC 監事より指摘があった。第10条と第11条（解散と残余財産）を追加。事務局としてはできるだけ財産が残らないように活動を行っていくが、万が一残ってしまった場合に備えて規約に定めたもの。

⇒規約改定が承認された。

5.2 財務担当幹事・監査について：

会計管理は共同事務局の JANIC が行っている。預り金という会計で、JANIC の本体会計とは分けた独立会計として管理している。JANIC 監事は分離管理が適切にされているかどうかをチェックしている。第2期は助成金が40万円ほど獲得できた他、会費として20万程度の収入がある。そのため、管理をきちんと把握する必要がある。会計担当の幹事を置き、会計監査を行っていただくというように幹事会で議論した。白須さんと片山さんを任命。

⇒財務担当幹事・監査について承認された。

5.3 CSO プランニンググループおよび市民社会フォーラム進捗の報告：

<報告>

堀内（事務局、JANIC）：

- ・第1回 CSO Planning Group 会議が行われた。15名の CSO メンバー、世銀の CSO チームのメンバーが参加。日本からは田辺、石井、加藤、大橋がメンバーとして登録しているが、大橋の代理として鶴見、堀内が参加。世銀の開氏も参加して議論を行った。IMF 世銀の総会にあわせてセミナーの企画、ロジについて話し合った。

鶴見（幹事、プラン・ジャパン）：

- ・CSO Planning Group メンバーで登録しているのは合計 16 名。鶴見は大橋の代理として参加。

堀内：

- ・ロジ情報について質問を送ったので資料にまとめた。総会への参加登録は、9月24日（月）までに必ず行ってほしい。労組、生協等もCSOとして登録し、企業はビジターとして登録する。登録すれば、タウンホールミーティングとCSO Programに参加可能。
- ・市民社会プログラムについては、10月8日から東京国際フォーラムで開催される。セミナー開催申請の締め切りは9月14日（金）だが、先着順になるので、できるだけ早く世銀側に提案してほしい。日本以外にも世界のNGOも登録を出している。スケジュールが確定するのが9月上旬以降なので、確定後、ウェブに掲載される。ユースプログラムも開催される。
- ・CSOのスペースが東京国際フォーラム1Fに開設される。合計3つの部屋（100～120の部屋が2つ、70名ほどの部屋が1つ）があり、そこでCSOフォーラムが開催される。パソコン・プリンター・コピー機が置かれる。
- ・同時通訳について、備え付けの通訳機材が2つ。通訳に関する予算は世銀ではもてない。CSOスペースの中に、セミナーのパンフなどが用意される。
- ・スポンサーCSOは毎回選ばれており、IMF・世銀あわせて40～50名を予定している。IMF・世銀のCSOチームが確認する。ユースメンバーもスポンサードCSOに含まれている。ただし、日本のCSOは対象外。過去のスポンサードCSOのリストは下記に掲載されている（PDF）。
http://siteresources.worldbank.org/CSO/Resources/List_of_CSOLeaders_Sponsored_to_Attend_Annual_Spring_Meetings_from_2003-2012_1_June_2012.pdf
- ・海外CSOの受け入れについて、CSO Planning Group会議で議題となった。ホテルについては、田辺から海外NGOに発信する。2009年のトルコ会議では、CSO Planning Groupのメンバーが世銀のスポンサーによって事前に集まり、CSOの意見をまとめたという。それが大変有益だったということ。それが日本でもできないかを世銀側に尋ねたところ「今回は予算のみで電話会議のみ。ただし、メールなどで自由に連絡をとれる」との返答。今回は予算がないので、総会の1日前に議論してはどうかと考えている。
- ・CSO Planning Groupの次回会議は8月上旬～9月上旬を予定している。

田辺（幹事・事務局、JACSES）：

- ・TORというのは、CSO Planning Groupの役割を記したもの。Planning Groupが決定権を持っているわけではない。世銀へのアドバイスをするという役割。CSO Planning Groupのメンバーリストを配布している。セミナーのスケジュールについては、市民社会プログラムの中ですでに出てきている提案。

鶴見：

- ・10月10日（水）～13日（土）まで4日間あるが、市民社会プログラムは東京国際フォーラムに集中しており、1スロット90分。場合によっては1つのセミナーで2スロットになるかもしれない。40～50のセミナーが開かれる見込み。1日当たり12スロットを予定。その他の会場は帝国ホテル、ホテルオークラ。ここはIMF・世銀の委員会が行われる場所である。CSOがそこに出かけていくことはあまりないだろう。主会場は東京フォーラムになる。

<質疑応答>

谷山（幹事、JVC）：プレスルームは、東京国際フォーラムにあるのか？

鶴見：その通りである。

田中（オルタモンド）：市民社会プログラムの器に入らない催し物は、プログラムに乗るのか？

田辺：Bank Information Center が市民向けのセミナーの情報をいつも集めている。CSO 連絡会で情報をまとめて BIC に送ろうと考えている。

白須（幹事、日本リザルツ）：外で開催する場合は、田辺さんに連絡をすればいいのか？

田辺：ひとつの広報ツールと考えてもらっていいが、広報は自分たちでご尽力いただきたい。

白須：グローバルフェスタと IMF・世銀年次総会の関係は？

堀内：「グローバルフェスタ JAPAN2012」は10月6日（土）～7日（日）に開催される。JANIC も共催団体の一員。広報ツールとして考えてもらえばいい。しかし、IMF・世銀と直接的につながりがあるわけではない。

鶴見：市民社会プログラムでは50スロットくらい。この中にはIMFの主催、世銀の主催、CSO の主催、CSOと世銀とIMFの共催がすべて入っている。日本のNGOで時間帯を決めていない人は、早急にコンタクトして時間帯を抑えないと確保できなくなる。急いでほしい。

谷山：Planning Groupについてはもう少し状況の共有をお願いしたい。

鶴見：電話会議が午後9時～10時30分まであって、実質的には21名が参加した。アジェンダは世銀が設定している。今後の在り方として、CSO側のアジェンダ設定は事前に話し合いながら議論のポイントをつめていったほうがいい。また海外の主要な人たちとの事前の協議もしたほうがいい。そうしないと、どうしてもIMF・世銀側の意向だけになってしまふ。そこを懸念している。

田辺：事前の調整は必要だと思う。

谷山：CSOから議題提案はできるのか？

鶴見：可能である。

田中（PARC）：CSO Planning Groupにどのような人が選ばれているのか、そのバランスについて教えてほしい。

田辺：日本は公募したが、海外の人は、海外の世銀事務所の推薦でメンバーになっている。BICは入っているが、クリティカルな中でも一番現実的な人が入っている。

堀江（Save the Children JAPAN）：Save the Children UKのサイモンがCSO Planning Groupに入っている。Health and Nutritionの部があり、そこのシビルソサエティグループのメンバーの1人。世銀から入ってくれと言われたから入った。

鶴見：メンバーの中には世界銀行のJohnとよく連絡を取っている人がいるので、あまりクリティカルではない人が多い。スリランカのメンバーはユース。加藤くんもユース。

谷山：ラテンアメリカから追加でメンバーが入った。

定松（Save the Children JAPAN）：ロジ的な話が前回は多かったようだが、市民社会フォーラムの企画・アドバイスがもともとの役割。どうアドバイスしていくのか？スロットがそれぞれあって、それぞれの団体が準備していく事になると思うが、あくまでもニーズベースなのか？それ以上の働きかけをしていくということなのか？

鶴見：電話会議に出た感触だが、特に年次総会のタウンホールミーティングには新しい総裁も出て

くる。タウンホールの在り方、質問者の決め方を含めて、Planning Group の役割だと思う。CSO からのスポンサーCSO の提案は CSO Group からできることになっている。役割といえば役割。今、40名～50名のスポンサーということで招聘が決まっているが、Planning Group もメンバー。それを除いた35名くらいを推薦できる。最終的に決めるのは世銀。また、日本のNGO からホテルの紹介をしてほしい、といわれた。

田辺：CSO Policy Forum の中で、CSO とジョイントでやるものの中味のリクエストを受け付けている。こういうテーマで世銀にやってほしいという受け付けがなされた。また理事と CSO のミーティングをどう持つかについてもアイディアがだされた。

谷山：CSO Planning Group の助言について、Planning Group のメンバーとしてするということだが、Planning Group をサポートするということで、CSO 連絡会としてもできるのでご意見があればいただきたい。世銀や IMF 主催の内容で、提案もできる。

片山（幹事、ワールドビジョンジャパン）：幹事会にメールを出してお願いをしたが、展示スペースについて。各 NGO・NPO はワシントンでは勝手にパンフを置いてなくなったら補充するというかたちにしたが、それはきっちり決めたほうがいい。そうでないと、早い者勝ちになってしまう。ある程度ルール化してほしい。また、展示をやるときのスペースを確保してほしい。こういうロジ的なことは幹事会や全体会で確認したほうがいい。

鶴見：展示スペースについては、開さんに問い合わせをしている。東京フォーラムでは3部屋しか抑えていない。ある程度のスペースはあるが、ルールの問題になるので事務局から確認する。

片山：当団体は日にちも場所も決めたが、これをやっていく過程で世銀と共催になった。個別に相談して決まったが、これはオープンにしたほうがいい。どういうルートでどこに申し込むのかについて、オープンにしたほうがいい。

田辺：すでに世銀のウェブサイトには掲載されている。

片山：個別の交渉になるので、それをオープンにしたほうがいいという意味。

鶴見：プランのケースでは、John に相談をしてほしいということで、要点をまとめて出した。John からスロットを確保したというインフォメーションがきた。しかし共催にするかどうかは連絡が来ていない。

谷山：基本的には公募。しかも先着順。

片山：申込みをしただけではだめ。メールでやり取りをしたほうがいい。電話も必要に応じて。

鶴見：我々は提案した通りになった。

谷山：プロセスにちゃんと乗って成功した例はいいが、プロセスに乗せて拒否される場合もある。こういったケースについて、CSO 連絡会から世銀に働きかけて、透明性を促すプロセスをとったほうがいい。そうすることによって、公平性が保たれる。

名取（難民を助ける会）：これから考えるが、AAR としては開催したい。

服部（地球サミット 2012Japan）：リオ+20 で活動していた。今までの50年、これからのが50年という2つのテーマがある。お金との付き合い方について、これからのが50年について、場をシェアしたいと思い、申し込みの作業を進めている。

堀江：SCJ としては2つ関わる予定。1つは前回もお知らせした通り、Japan CSO Network On Global Health という団体を、日本リザルツ、Oxfam Japan、アフリカ日本協議会（AJF）、国境なき医師団（MSF）、ストップ結核パートナーシップ、ジョイセフ、SCJ の7団体が結

成した。保健財政、ユニバーサル・カバレッジの2つの企画が開催されるが、そのサイド企画ということで3時間通して行う。誰のために投資するのか、ユニバーサル・カバレッジの2つをテーマに、Results International、Oxfam International、Save the Children International も共催に入る予定。企画を世銀の担当者に送って受理されている。現在、日程と場所の調整をしている。保健関係のNGOが集まって共同企画ということなので、サポートタイプな対応していただいている。SCUK主催のプロポーズドセッション。問題意識としては、格差が非常に広がっており、中所得国に世界の貧困の主な状況、ポストMDGsに向けて格差をどうとらえて、どういう政策をとるのかというレポートを発表予定。それにあわせてセミナーをしていく。これも受理されて、10月12日（金）16時～の予定。

谷山：1団体が提案できる上限が決まっているのか？

鶴見：2つまで。ただし共催は例外。

田中（オルタモンド）：大規模な金融取引税以外のセッションで、小規模で革新的資金調達としての国際連帯税のセミナーを行いたいと考え、準備中。

白須：AJF、ミレニアムプロミスジャパン、世界連邦と開催する提案書を出している。4月には提案済である。

鶴見：プランではプロポーズドセッションが格上げされ、10月11日（木）午後2時～3時30分になった。

谷山：ここまで聞いてきて、だいぶスロットが少なくなってきたと思う。

堀内：JANICと動く→動かすの共催セミナーは10月13日（土）14時～15時30分の予定。参考としてコンセプトペーパーを配布する。MDGsと貧困削減がテーマ。

谷山：電話会議について質問があれば。CSO Planning Groupのメンバーに1日～2日前に集まって会議をしたほうがいいという提案があったが、これについてはいかがか。

堀内：日本のCSOと海外のCSOとのミーティングを行ったほうがよい、ということ。

鶴見：イスタンブール会議では、世銀がお金を出し、実際の本会合の3か月前に集まっている。スポンサーCSOの費用はいいが、ノンスポンサーCSOはその費用をどうするか。滞在費の問題は残る。

白須：通訳は？

鶴見：通訳は必要ない。英語ができる人が来る。ここで議論するのは、タウンホールやエグゼクティブとのトーキングポイント。これについてはまとめたほうがいい。

田辺：中味のコーディネーションがかなり大変。お互いいいろいろなイシューをもっているため、ワシントン春季会合ではやっていない。ワシントンを巻き込んだコーディネーションをする覚悟が必要。

谷山：これは幹事会で議論したほうがいい。現実的にできるかどうかという問題がある。意見があれば出してほしい。

5-4. 第3回セミナーの企画について

田辺：9月26日（水）に開催する予定。第2回セミナーは平日昼間に開催したが、夜に開催したほうがいいので、夕方～夜にやる方向で検討中。テーマとしては、メディアも呼んで総会の論点を一覧にできるようなものをやったほうがいい。プログラムの中味の提案をいただけれ

ばと思う。幹事会で議論して企画案をまとめたが、いかがか。

谷山：総会の直近の大きなイベントとなる。メディアを巻き込む。総会では関連したイベントは考えているのか？

田辺：CSO 連絡会としては考えていない。

服部：あらかじめメディアにインプットすることは重要。

白須：メディアにパネルに加わってもらうはどうか？

服部：そうするとその他のメディアが書かない。リオでは環境省の番記者に全部情報を出して、コントラクトを持った。この件を取材する人がいるはずなので、きちんと書いてもらうように働きかけたほうがいい。

片山：メディアを呼ぶことと、IMF・世銀の人間が講師になるということと、CSO が主張することは違う。総会自体のテーマが焦点になるのでは。パネリストには、CSO との関係という話をしてもらわないといけないので。パネルとかみ合うのか。メディアも総会自体のテーマには関心があると思うが、CSO が保健や生物多様性といつてもなかなか難しいだろう。

白須：世銀総裁が CSO との関係でかなり良いことをエイズ会議で言った。

小俣（横浜 NGO 連絡会）：テーマを絞り込んでパネリストをお呼びするということだが、CSO 連絡会でフォーラムを開催するとき、何をテーマにやるのかが見えていない。今日の学習会では、北沢さんは IMF に否定的、松本さんはデータをもとに IMF・世銀のあり方を見ていくという立場。CSO 連絡会は、IMF・世銀を否定した立場でシンポをするのか、または IMF や世銀は必要という立場ですか。

片山：両方ある。CSO 連絡会は、IMF や世銀を否定する集まりでも肯定する集まりでもない。お互いいろいろな立場、考え方があるということ。

谷山：CSO 連絡会としては政策提言はしない。しかしいろいろな意見がある団体が提言活動をできるように後押しするような役割を果たしていく。

服部：メディアの方々には、CSO が IMF・世銀総会に関わっていて、いろいろなテーマで市民社会もセミナーを開催するということを知ってもらえるといい。

谷山：大枠はこれでいいと思うが、内容は詰めたほうがいいのでは。テーマ別なのか、あるいは CSO との関係なのか。

田中（オルタモンド）：欧州債務危機がある。世界を IMF・世銀はどう考えているのかということを聞いてみたい。

田中（PARC）：時間配分が微妙だと思う。IMF や世銀に 90 分も話してもらう必要はない。CSO の講演時間をもっと長くしたほうがいい。

田辺：メールでも意見を受け付けるが、なるべく早く意見を出してほしい。

5-6. その他

堀内：海外の CSO 向けに CSO 連絡会の英語ページで情報を出していく。

もう一点、環境パートナーシップ会議代表理事の廣野良吉さん（成蹊大学名誉教授）が、「ESD の 10 年・世界の祭典」推進フォーラムの一環として貧困削減と環境の研究会を主催しており、CSO 連絡会と共に開催したいということだった。8 月 11 日（土）の第 1 回研究会は決まっているが、その後の詳細は来ていないので追って連絡する。

片山：共催するかどうかは幹事会で議論するということか？

堀内：その通り。ご意見はいただければと思うが、最終的には幹事会で決定する。

服部：facebookを活用しては？必要があればいつでも設置する。

谷山：直接事務局と相談してください。

村上（オブザーバー、高木仁三郎市民科学基金）：現代の科学技術の負の部分に取り組む活動をしている。今回、IMF・世銀のこうした機会があることを考えると、この時期に海外から人がたくさん来るので、福島のことがどういうことなのか、放射能汚染、避難の状況など情報発信するのは非常に良い機会。田辺さんに相談したが、まだこういう企画をしているところはない。何ができるか具体的に考えていないが、高木基金として何らかのことをやりたい。しかし原発といったときに世銀は融資していないので、ストレートにやるのは難しい。一方で、総会の外でやるとなると難しい面もある。どういうやり方があるのかを相談したい。ご意見を伺えればと思う。

谷山：外でやる企画は自由にできるが、どこのチャネルで広報すればいいのかということを考えたほうがよい。CSO連絡会への参加は？

高木：まだ参加していない。市民社会プログラムではこうした企画は難しいか？

服部：私たちはそのようなテーマでセミナーを提案する予定。

谷山：事務局や今日出会った人と、相談していただければと思う。

村上：了解した。

以上の議事内容を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び議事録署名人は以下の通り署名する。

議長 谷山 博史 (谷山 博史) 
井上 団 (井上 団) 
議事録署名人 田中 徹二 (田中 徹二) 

以上